|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | **助成金一覧表にある研究タイトルを転載** | **○○　○○** |

**【目的】**研究の背景や目的を簡潔に記載する。

このテンプレートに上書きすると、フォントサイズも含めて書式が維持される。研究報告書はフルペーパー論文形式で、その構成は、「要旨」と「報告書本文」の２部構成となる。いずれも、このwordテンプレートを使って執筆する。この1ページ目が「要旨」のテンプレートで、「報告書本文」のテンプレートは2ページ目以降になる。

「要旨」：研究報告集の紙面に掲載するとともに、添付のCD-ROMに収録する。

「研究報告書本文」：添付のCD-ROMに収録する。

要旨に執筆する項目

・研究の【目的】、【方法】、【結果】を簡潔に記載する。

・要旨は、画像や図表を含めて1頁以内にまとめる。

・必ず画像や図表など1枚を挿入すること。

**【方法】**研究方法について簡潔に記載する。

**【結果】**本研究での結果を簡潔に記載する。

図表のタイトルを記載する（図表の説明は不要）



助成金一覧表にある研究タイトルを転載

○○　○○

助成金一覧表にある申請時の所属機関名を転載

Key words：キーワードは５つまで，上原記念生命科学財団，ワード，テンプレート，スタイル

緒　言

上原記念生命科学財団　研究報告書のテンプレートである。このテンプレートのタイトル、著者名、本文などはあらかじめフォントサイズなどの書式が設定されている。この書式を崩さずに入力すれば、一行の文字数、1ページの行数など定められた形式で作成することができる。

こちらには、要旨の記載とは別に独立して、研究の背景、研究を始めた動機や目的を記載する（要旨と重複する記載があっても構わない）。また、論文内容の要約と得られた成果も簡潔に説明する。既に本報告書に記載する研究内容全般を記述した論文を発表している場合は、緒言の最後を引用箇所とする。

尚、報告書本文は2,500字～3,000字程度を目安として（刷り上がり4～5頁程度）、以下の構成と内容にて記載する。方法・結果・考察については適宜まとめて記載して構わない。

* キーワード： 5つまで
* 緒言： 研究の背景、目的を記載する。
* 方法： 具体的な方法を過去形で記載する（概略でも可）。
* 結果： 実際の研究結果や実験データをできるだけ具体的に過去形で記載する。
* 考察： 結果に対する考察を記載する。
* 図表： 概念図だけではなく、必ず具体的な研究結果データーを示す図表を掲載する。  
  　　 （図表の内容に応じて、必ずP値と統計処理法、スケールバーなどを記載する。）
* 文献： 必ず1報以上記載する（最大10報）。  
  　　　 NLM形式（PubMed方式）で記載する。  
  　　　 本文中に引用箇所をカギ括弧にて記載する（例：［1］、［1，3］、［1～3］、［1，3～5］等）。

方　法（or 方法および結果）

1. **こちらには、方法（方法および結果）の項目タイトルを記入する。**

論文の本文を入力する．必要に応じて、「本文行頭１字下げ」を行う。

**2．このテンプレートの使い方**

書式について：このテンプレートのタイトル、著者名、本文などはあらかじめフォントサイズなどの書式が設定されている。この書式を崩さずに入力すれば、一行の文字数、１ページの行数など定められた形式で作成することができる。また、章や節、項のタイトルが長く、複数行に渡る場合は、適当な箇所で段落に分けない改行（Shift＋Enter）を挿入し、見やすいように調整する。

現在の所属：〇〇大学大学院〇〇系研究科〇〇教室（申請時から所属変更があった場合に記載する）

**3．書式を崩さないように入力するには、以下の点に注意する。**

（1）他のワードファイルから文章をコピーして貼り付ける場合は、**書式を一緒に貼り付けないように注意**する。元の文書で文字列をコピーしたあと、このテンプレートに［編集］－［形式を選択して貼り付け］コマンドの「テキスト」を選択して貼り付けを行う。

（2）書式を崩してしまった場合は、段落内にカーソルを置き、［書式設定］ツールバーの「スタイル」ボックスで、指定したいスタイルをクリックする。

結　果（or 結果および考察）

**1．こちらに結果の項目タイトルを入力する。**

**2．結果の記述は、概念的な記述だけではなく、研究結果を示すできるだけ具体的な記述をする。**

**3．図表の挿入**

以下の例（図1、表1）を参考にして挿入する。概念図だけではなく、結果を示す具体的なデータを示す図表を必ず一枚は挿入する。

（1）図や画像の挿入とタイトル、説明文について

ワードの「挿入」－「図」をクリックして、画像ファイルを指定して挿入する。タイトルはその下に本文中に記載する（画像ファイル中にタイトルを記載しない）。図の説明文は、本文中タイトルの下に記載する。



図1．こちらにタイトルを入力する

こちらに図1の説明文を必ず入力する。複数の図で構成されている場合は、例えば、

a）図aについての説明、

b）図bについての説明、のように各図についての説明を分けて記載する。

統計処理を行った場合は、必ず統計処理法とＰ値を記載する。

また、写真画像にはスケールバー表示を行う。

（2）表の挿入について

同様に表のファイルを挿入する。表タイトルは、本文中、表の上部に記載する。表の説明文は、表の下に記載する。

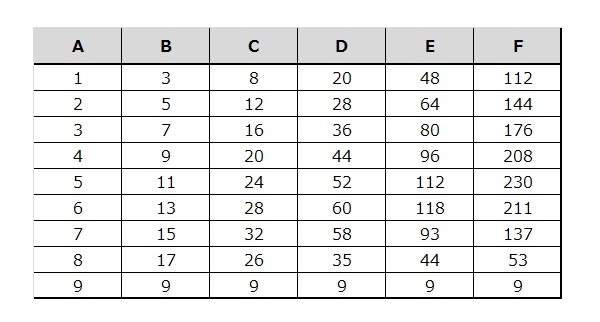


表1．（例）こちらに表1のタイトルを入力する

表1の説明文はこちらに記載する。

Ａ欄の値は〇〇を示し、Ｂ～Ｅの各欄の数値は△△を示しているが、Ｆ欄については、Ｅ欄の上下二つのセルの合計を示している。

（3）統計処理とスケールバーの記載について

統計処理を行った場合は、必ず統計処理法とＰ値を記載する。また、写真画像にはスケールバー表示を行う。

考　察

こちらには、考察を記載する。「結果および考察」として記載した場合は、この考察欄は削除する。

共同研究者・謝辞

例：本研究の共同研究者は、〇〇大学大学院□□研究科△△学研究室の〇〇〇〇である。

財団に対する謝辞は記載しなくても良い。

文　献

1. Pubmed方式（NLM形式）で記述すること。最大10報の引用に留める。
2. 例、Takahashi K, Yamanaka S. Induction of pluripotent stem cells from mouse embryonic and adult fibroblast cultures by defined factors. Cell. 2006 Aug 25;126(4):663-76. Epub 2006 Aug 10. PMID: 16904174 DOI: 10.1016/j.cell.2006.07.024